

依田窪福祉会 「心機一転」



理事長

渡邊 和美

平成29年度事業計画・予算が決定され、また、職員体制も一新し、「新生 依田窪福祉会」として法人運営も心機一転、再出発となりました。

「新生 依田窪福祉会」としての一端を申し上げたいと思います。この「新生」とは、今、自分に与えられている仕事・責務の中で大切にしていかなければならない事は何かと考えたときにでてきたテーマです。

人とは何か、特別養護老人ホームを利用する人、デイサービスを利用する人、障害をもって利用する人、認知症によって利用する人、とはどのような立ち位置にある人達なのか、大切なことは何かと、日々入所者や通所利用者から色々と教えられています。そこで、「新生 依田窪福祉会」は様々に対応できるサービスの提供を本年度事業計画・予算に盛り込み実現して参ります。

具体的には、老人ホーム、デイサービスの運営を軸にしつつも、施設利用者のみならず地域の高齢者の方々、老若男女が「行きたい!」と思える開かれた特化した施設づくりを目指します。例えば、長和町の全面的な協力をいただき、デイ長門には長門温泉「やすらぎの湯」、デイ和田については西部温泉の源泉を引湯していますので、地の利を大いにアピールしながら「温泉デイサービス」を展開し、併せて利用者の運動機能、筋力向上が図れるよう運動機器を導入して参りたいと思います。また、特養「ともしび」でも運動器具を導入し、介護予防体操クラブの設立を図り、介護予防運動を地域に向けて発信して参りたいと考えております。その他色々なサービス提供を考えておりますが、もし自分が施設利用者になったら施設はどうあるべきか、どうあってほしいか等々自問自答しながら事業運営を進めて参りたいと思います。

又、最重度の介護を必要とされている高齢者の方であっても、その人格が尊重され、この地域で暮らせてよかった、と思えるような安心感のある施設づくりを目指して、いろいろの施策を講じています。同時に、このような施設づくりを推進していくことが、なんらかの支援を必要とされている高齢者の方々のためだけでなく、この長和町・上田市武石地域に住んでいるすべての地域住民みなさま方にとっても、暮らしやすい地域となることにつながるのではないかと考えています。

今後とも、地域の皆様のために頑張って参りますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

寄り合い処 からさわ

共に過ごす時間…

「おはようございま〜す」毎週木曜日の10時30分頃になると、寄り合い処からさわの玄関では元気な声が響きます。血圧と体温を測定し、お茶飲みが始まると、ご利用者が持ち寄った漬物や煮豆などがテーブルに並び、「美味しいね。これはどうやって作るの」「この味付けは何入れた」などと、ちょっとした料理教室となります。そのうち「私は毎日银杏食べているから元気なんだよ」「私はにんにくが体に合うみたい」「生姜食べると体が温まるね」と今度は健康教室です。確かに、からさわのご利用者の皆さんは、とてもお元気で肌も艶々としています。「皆さんから教えてもらった体に良い食べ物の本を売ったら儲かるかな」と職員



言葉に皆さん大笑い!!

「昔は近所の人とよくお茶飲みしたけど、今は足も悪くなって動くのも大変でお茶飲みもしなくなってね。ここに来れば皆に会えて、話もできるから楽しいよ」「家で1人じゃできないことが、ここでは皆と一緒にだからできるよ」

週に1日だけですが、誰かと共に過ごす時間の中で、大きな声で笑ったり、沢山お話しすることで益々お元気に過ごしていただけたらと思います。



デイサービスセンター 長久保

デイサービスセンター長久保 卒業?!

平成20年より地域の皆様に支えられ愛されてきましたデイサービスセンター長久保は、地域支援事業所への転換のため介護保険事業を3月末で休止しました。

休止前、他事業所に移られるご利用者と異動職員の卒業式とお別れ会を行いました。

職員がお寿司屋さんに扮して、ご利用者があれこれ好きな“にぎり寿司”を注文。腹いっぱい!

美味しい手作りお菓子とお茶で、写真を見ながらあれこれ思い出も蘇り、話でいっぱい!歌いっぱい!

ご近所さんや関係者の皆さんも集まって部屋いっぱい!

職員からご利用者へ、ご利用者から職員へ…卒業証書を互いに渡し、気持ちを伝えて涙いっぱい。笑いっぱい。胸いっぱい! 温かい時間でした。

さらなる健康と幸せを願い、デイサービスセンター長久保恒例の威勢のいい一本締めでお開きとなりました。

今まで支えてくださった皆さまに心より御礼申し上げます。

そして今、新たな事業を計画中です。再びこの場所で活動する日が来るまで、少しお待ち下さい。



特別養護老人ホーム ともしび

共に…

「共」とは、「いっしょ」・「仲間になる」などの意味があります。ともしびでは「ほっと一息、あなたの傍で…」を職員の合言葉として掲げています。職員から合言葉を募集し、投票をして決めました。業務に追われている日々の中でも、ほっと一息つき、ご利用者の傍でいっしょに過ごす時間を大切にしようという思いが込められています。ご利用者は、「あんたどうしただい、ちょっとここに座って休んでいきな」などと声を掛けて下さいます。ともしびの職員は、ご利用者にとって孫やひ孫にあたる若い世代が多く、まるで自分の孫のように心配してくれます。冬場でも半袖を着ている職員に、「あんたそんな格好していて寒くないかい」また時には、「あんたも食べな」とご自分の食事やおやつを職員に分けようとするご利用者もいます。そんな日常の姿は、共に過ごす時間の中で生まれた、信頼関係の表れかと思えます。

介護方針にある、「ゆっくり」「いっしょ」「わがまま」の「いっしょ」は共に過ごすこと。そして色々な「いっしょ」があります。いっしょに食べる・いっしょに出掛ける・いっしょに体を動かす・いっしょに作る・いっしょに楽しむ・いっしょに歌う・いっしょに笑う…ご利用者と沢山の「いっしょ」をこれからも大切にしていきます。

日々忙しいあなたも、大切な誰かの傍で「ほっと一息」つきませんか…



依田窪福祉会居宅介護支援事業

「介護保険の制度が始まる前、地域でおやつやおかずを持ち寄ってお茶のみ会をしていた。」ご利用者宅に訪問をした際に聞いた話です。

同年代・仲の良い人たちといくつかのグループを掛け持ちながらのお茶会で、「いろいろな話が出来て楽しくて、お昼前から夕方までずっと話をしていた。」と懐かしそうに話をされていました。

今ではそのようなお茶のみ会が少なくなってしまったようですが、独り暮らしの人や高齢者世帯の方が近所にいる時には、カーテンが空いたか？電気がついたか？と

見守りをしてくださっているようです。

地域の方たちが「共」を実践されています。私達ケアマネジャーも、ご利用者が地域で生活をして頂けるように「共」の一員として、サービス事業所や行政などと連携をしながら見守りや支援を行っていきます。



ヘルプーステーションおすすめ

ヘルパーはご利用者のお宅に訪問させていただき、身体介護や家事援助を行っています。

ご利用者のお宅ごとに、包丁やまな板、フライパン、調味料、洗剤など家事援助に必要な物品の置き場所が違います。決められた場所を把握し、いつもと同じ場所に置いておかないと、次に訪問したヘルパーが、どこにあるかと探す手間が増え、作業効率が悪くなり、決められた時間内にサービスが提供できなくなってしまいます。

また、ヘルパーごとに、やり方の違う援助をしてしまうと、援助内容に違いがでてしまい、ご利用者に不信感を与え、不安な思いをさせてしまいます。ご利用者が安心して、同じサービスを受けられることが一番大切ですが、毎回同じヘルパーが訪問できるとは限りません。現在12名いる職員がご利用者に対し、同じようにサービスを提供するためにも、細かな情報の共有がとても

大切になります。

朝出勤して来ても、ご利用者によって訪問時間が異なり、移動時間もある為、職員が揃って顔を合わせる時間は取れません。お昼頃になると事務所に戻り皆で昼食を食べます。唯一その時が顔を合わせて情報交換できる時間となります。ご利用者一人ひとりに対し、安心、安全にいつも同じサービスを提供する為には、ヘルパーの事務所はとても大切な「情報共有の場」です。



デイサービスセンター 長門 鳥屋 だより



地域の方々それぞれのご要望に合ったサービスに取り組んでいきます。地域の皆さんと共に作っていくデイサービスとして、新しいスタートの春です。

地域と共に

暖かくなり、「外に出たいな」という日があっても、高齢者は自分の意思で自由に外に出ることができないということが多くあります。

外出の機会が減ることで暮らしの質が大幅に下がってしまい、生きがいや自尊心を失ったりする事があります。行動が制限されて被害感情を抱くケースもあるようです。

まだまだ体は元気。でも、「車の免許を返納した」「温泉に行きたいけど行かない」そういった元気な皆さんにもデイサービスにお越しいただきたいと考えました。地域の様々な方にご利用頂ける施設へとサービスを変え、安心して外出できる地域の憩いの場を目指したいと思います。

温泉だけのご利用、早朝からのご利用、半日だけのご利用、夕方の延長利用…ご利用の仕方は皆さん次第。

ご利用者の思い、ご家族の思い、



デイサービスセンター 和田 かわら版

好評です。おたっしや倶楽部

平成29年1月よりデイサービスセンター和田の2階にて、火曜日と木曜日の午前中に『おたっしや倶楽部』を開催しています。

1月スタート時の登録者数は10名でしたが、おためし利用の申込みも多くあり、現在は登録者が20名まで増えてきました。ご利用者が近所の友達に声を掛けて誘ってくださっていることも登録者が増えてきた理由の1つとなっています。

ご利用者からは「おたっしや倶楽部に来るのが楽しみ」「こんなサービスができるのを待っていた」などの感想もいただいています。また、ボランティアの方にも毎週来ていただき一緒に楽しんでいただいています。

おたっしや倶楽部の活動内容は、外食や買い物に



出かけたり、ご利用者が先生となり、太極拳をすることもあります。

おたっしや倶楽部は介護予防という目的以外にも、ご利用者、ボランティアの方、職員、皆で共に楽しむということをととても大切にしています。ぜひ一度おためしください。

詳しい内容は、長和町町民福祉課(75-2046)もしくは、デイサービスセンター和田(88-0077)までお問い合わせください。

グループホーム和田 デイサービスセンター橋場なごみや

地域と共存できるグループホームをこれからも

グループホーム和田は、認知症のために自宅での生活が難しくなった8名の方が、ひとつの屋根の下で共に生活しています。

長く生活するうちに入居者同士、また職員とも馴染みの関係が生まれ、グループホームは共に暮らすもう一つの家族となります。できるだけ家庭に近い環境で、地域社会と関りながら生活する事で認知症の症状の進行を遅らせることにもつながります。

2025年には認知症の人は5人に1人といわれています。5分前のことは忘れるけれど、その瞬間の話は成立するので見た目では分からず、行方不明になるケースも全国的に増加しているようです。認知症になっても誰もが支えあい、共に暮らせる地域づくりにお役に立てるよう、専門知識を持った職員が待機しております。

お困りのことがありましたらいつでもグループホーム和田(88-0088)までご相談ください。



小規模多機能型居宅介護 大門の家

「共有」すること

大門の家では、通い、訪問、泊まりの各サービスを組み合わせながら、ご利用者が地域での生活を続けていけるようお手伝いをしています。

ご利用者お一人お一人の多様な生活を支えていくなかで、情報の「共有」というものがとても大切になってきます。とても大切な事であり、同時にとても難しいものであると日々感じています。

大門の家でも、毎日の朝礼や申し送り、連絡ノートなどのツール

も使いながら情報の共有に努めています。

ご利用者の生活がより良くなるよう、「共有」することの大切さを意識しながら頑張っていきたいと思います。



福祉車両の寄贈・助成 ありがとうございました

日本財団様

- ・車椅子対応車(車いす2名)の整備
- ・キャラバンチェアキャブM仕様 4WD
- ・事業費総額 2,627,000円
- ・助成金額 2,100,000円
- ・完了年月日 平成29年3月18日



24時間テレビ チャリティー委員会様

- ・スロープ付 軽自動車の寄贈
- ・ダイハツ・アトレスローパー
- ・納車日 平成29年3月15日



利用者の送迎など地域福祉向上のために活用いたします

老人ホーム ともしび

洗たくものたたみ、 ボランティア募集

時間 9:30~11:30

お申し込み・お問い合わせ

TEL 85-2218(施設長 甲田、又は児島まで)



ご寄附ありがとうございました。

平成29年2月27日 ●ひな人形 / 匿名様

平成29年3月31日 ●オルガン / 柳沢 行夫様

他1名の方より、ご寄附をいただきました。

社会福祉法人 依田窪福祉会 事業別連絡先一覧

●法人本部 ☎85-2202

[E-mail] info@yodakubofukushikai.jp
[U R L] http://www.yodakubofukushikai.jp/

●依田窪特別養護老人ホーム } ☎85-2218
●短期入所生活介護事業 }

●依田窪福祉会居宅介護支援事業 ☎85-2047

●ヘルパーステーションこすもす ☎85-0098

●デイサービスセンター 鳥屋 (宅老所) ☎85-0010

●寄り合い処 からさわ ☎85-2115

●デイサービスセンター 長門 ☎68-0226

●小規模多機能型居宅介護 大門の家 ☎41-2123

●デイサービスセンター 和田 } ☎88-0077

●高齢者生活福祉センター }

●配食サービス事業 あやちゃん弁当 }

●グループホーム和田 } ☎88-0088

●デイサービスセンター橋場なごみや }